

「マサイ族の裸眼視力」 (協同組合通信/井戸端論弾) 15.6.23

先日テレビで来日中のマサイ族の特集を観た。驚いたのは、彼らの裸眼視力。何と 3.0 や 4.0 以上ということで、我国の現状の視力検査では計測不能。その昔、モンゴル人にも同様な報道があった。何百メートル先の木の上に鳥がいるのが見えたり、野ねずみが動くのを見逃さない。遺伝なのか、環境・運動・食物を含む後天的要因によるものなのか、大変興味深い。

ふと浮かんだ無名の漢詩。モンゴルの陰山の下、想像を超越した辺り一面を覆う草原・四野を詠った「天は蒼々、野は茫々、風吹き草たれて牛羊を見る」。

12 世紀後半に忽然と現れ、ユーラシア大陸の歴史を塗り替えたチンギス汗を蒼い狼という意味が判然とした。パオで暮らし、駿馬を駆り視力 4.0 で人の動きも木の囁きも鳥獣の素早い動きも、瞬時に捕え風のごとく行動。瞬く間に燎原を制し、史上最大の版図を広げた草原の自然児に、風林火山の信玄ならどうしたか。奇しくも国技大相撲はモンゴル人朝青龍の天下。

スポーツには動態視力が大切。物の動きだけでなく、実は対面する人間の心まで見通せる力を身につけているのかと、つい思う。

都会暮らしで大自然に接する機会が少ない身には、アフリカの大地と共に呼吸している人々の、輝くばかりの裸眼の光がとても美しい。

1977 年、米国マクガバン報告は「合衆国の食事の目標」と題し 5000 頁の公聴会の記録を公刊した。当時のアフリカの黒人は、人類の理想の食生活と健康体。以来、米国では世界で最悪の食生活改善と医療費削減を国家プロジェクトで取組んだ。今や世界中の野菜・果物等の栄養価は激減し、ほとんどの野菜や果物でビタミン類やミネラル等の本来の栄養がないと報告されている。

先進国の病気の多くが日々摂取している食事にある。即ち、生活習慣病は食源病で、米国では小学校からカロリー計算まで教育している。既に、サプリメントが健康維持に必須のもとして、深く理解・常用されている。

厚労省や農水省は野菜・果物のトレサ共々、一日も早く正しい栄養価を毎年公開し、国民を本来の健康に導く仕事が急務。

(気象情報システム株式会社 高津 敏)